

ISSN 1883-1656

Центр Российских Исследований
RRC Working Paper Series
No. 10



Центр Российских Исследований

2005 年におけるヴォロネジ州人口の社会動態について

ロシア連邦統計局ヴォロネジ州地域支部 報告書

ロシア連邦・ヴォロネジ市, 2006 年

雲和広(一橋大学経済研究所ロシア研究センター)・

横川和穂(一橋大学経済研究所ロシア研究センター)

訳

September 2008

**RUSSIAN RESEARCH CENTER
THE INSTITUTE OF ECONOMIC RESEARCH
HITOTSUBASHI UNIVERSITY
Kunitachi, Tokyo, JAPAN**

(翻訳)

2005 年におけるヴォロネジ州人口の社会動態について

ロシア連邦統計局ヴォロネジ州地域支部
報告書

ロシア連邦・ヴォロネジ市，2006 年

訳： 雲和広（一橋大学経済研究所ロシア研究センター）・
横川和穂（一橋大学経済研究所ロシア研究センター）

2005 年におけるヴォロネジ州人口の社会動態について

世界的に人口の自然動態による変動が小さくなりつつある状況において、人口の空間的立地にますます大きな影響を及ぼすようになってきているのは人口移動、つまり長期的あるいは恒常的な居住地の変更を伴う住民の移動である。

人口移動とは、単なる人々の機械的な移動ではなく、その国の社会・経済的、および政治的發展の様々な側面に影響を及ぼす複雑な社会的プロセスでもある。

人口移動は、人口規模やその年齢別・性別構成を変え、活発にかつ急速に人口状況に影響を及ぼす。そして世界の人口全体にとってはその増加要因とはならないかもしれないが、各々の地域にとってはその人口学的発展においてしばしば主要な役割を果たしている。

人口移動の活発さは、人口総流動数、すなわち人口流入と人口流出の総和によって特徴付けられる。

2001-2005 年のヴォロネジ州における人口流出入

人

	年				
	2001	2002	2003	2004	2005
流入	32600	33705	33074	33517	33903
流出	29925	28962	29636	31127	30727
総流動数	62525	62667	62710	64644	64630

2005 年における人口総流動数は 2004 年レベルに留まり、6 万 4600 人（州人口の 2.8%）であった。

人口移動および自然再生産の結果、州の人口は常に変化している。

2001 年-2005 年におけるヴォロネジ州の自然及び社会的人口増加

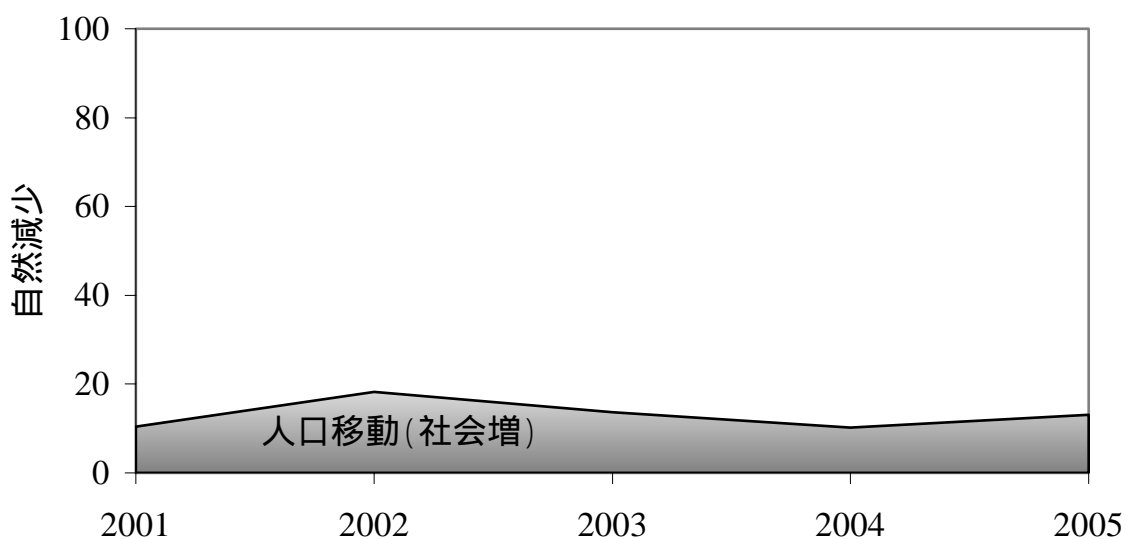
千人

	年				
	2001	2002	2003	2004	2005
総増加数	-22.9	-21.3	-21.7	-21.0	-21.0
うち（内数）:					
自然減少	-25.6	-26.0	-25.1	-23.4	-24.2
社会増加	2.7	4.7	3.4	2.4	3.2

この数年間、ヴォロネジ州にとって人口の社会増は人口減少を補正する唯一の源泉とな

っている。しかし、人口移動による増加を差し引きしても、人口の自然減を埋めるまでには至っていない。2005 年における同州の人口減少のうち、補填されたのは 13.1%に過ぎなかった。

社会増加による自然減少の補填(%)



現代の人口移動は、社会で起こる様々な出来事に対し速やかに反応する人口学的プロセスの 1 つである。人口移動の動機は実に様々であるが、重要なのは社会・経済的要因で、人々の生活条件の向上や職探し、教育機会の享受、家族の事情などと密接に結びついている。政治、民族、宗教、戦争、環境その他の理由もまた少なからぬ役割を担っている。

2005 年における 14 歳以上の移動者が居住地を変更した主な理由は、個人的あるいは家庭的事情によるもので（流入者の 62.5%、流出者の 60.4%）、以前の居住地への帰還（それぞれ 14.1%、16.5%）、教育に関わるもの（13.3%、10.7%）、就労に関わる理由（5.2%、7.8%）などであった。CIS やバルト諸国からのヴォロネジ州への移民の 6.2%は、民族間関係の悪化を移住の理由の 1 つとしていた。

移動する地域によって、人口移動は域内移動（州内）と域外移動（地域にとっての）に分けられる。

ここ数年のヴォロネジ州における人口移動パターンは、本質的には変化していない。2005 年に人口総流動全体に占める比重が最も大きかったのは、ロシア国内での人口移動であっ

た（93.3％）。そのうち州内移動が59.3％、州間移動が40.7％であった。

移動者のうち、以前の居住地に出生時から居住していた者の比率は、ロシア国内からの移動者の場合は18.7％、国外からの移民の場合は39.9％であった。以前の居住地に10年以上居住していたものの比率は、それぞれ74.1％と52.3％であった。

人口流入が最も増加しているのは、シベリア、極東、および北西連邦管区からである。これらの地域からの純人口流入は1400人で、2004年に比べて8.5％増加した。

ヴォロネジ州からの移民のうち最も多くを受け入れている地域は、モスクワ市およびモスクワ州（2400人）、ベルゴロド州（1100人）、リペツク州（1000人）であった。

国際人口移動の比率は6.7％であった。

人口移動概況

人

	2004			2005		
	流入	流出	社会増 (+), 社会 減(-)	流入	流出	社会増 (+), 社会 減(-)
総移動数	33517	31127	2390	33903	30727	3176
うち:						
ロシア国内	31215	30430	785	30285	29989	296
そのうち:						
州内	18301	18301	-	17869	17869	-
州間	12914	12129	785	12416	12120	296
国際移動	2302	697	1605	3618	738	2880
そのうち:						
CIS 及びバルト	2048	378	1670	3211	416	2795
その他外国	254	319	-65	407	322	85
(州間移動・国際移動をあわせた)						
州外から・州外への移動	15216	12826	2390	16034	12858	3176

最も緊密な国際移動のネットワークが築かれたのは、CIS およびバルト諸国との関係においてである。外国との相互の人口移動のうち、これらの地域は83.3％を占めた。

2005年はすべてのCIS およびバルト諸国に対して、純人口移動数は正値を維持した。2004

年との比較では、1.7 倍増加している。最も大規模な人口流入が観察されたのは、カザフスタン（前年比 24.9%増）、ウズベキスタン（同 22.7%増）、ウクライナ（17.9%）、およびキルギス（15.9%）からであった。

CIS およびバルト諸国とヴォロネジ州間の人口移動

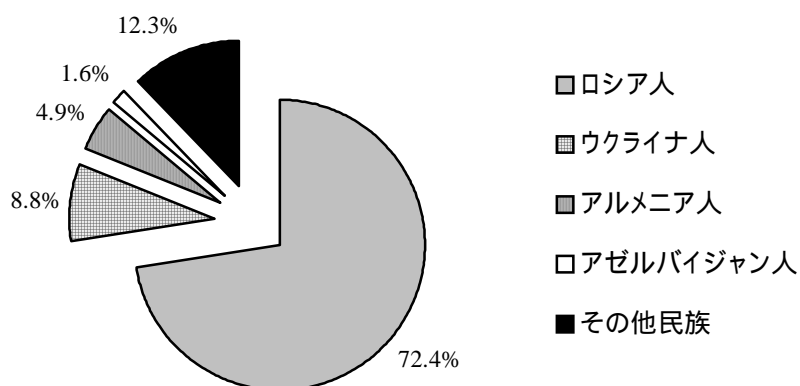
	年				
	2001	2002	2003	2004	2005
CIS 及びバルト諸国との移動による人口増加(+),或いは人口減少(-)	2605	3233	1817	1670	2795
うち:					
ベラルーシ	-14	49	9	19	9
カザフスタン	1114	980	439	567	697
モルダビア	111	149	138	75	99
ウクライナ	229	548	238	186	499
コーカサス諸国	182	216	154	123	249
そのうち:					
アゼルバイジャン	37	54	21	21	31
アルメニア	61	81	47	37	139
グルジア	84	81	86	65	79
中央アジア	966	1275	821	682	1210
そのうち:					
キルギス	262	413	192	288	444
タジキスタン	149	131	117	75	69
トルクメニスタン	76	132	128	50	62
ウズベキスタン	479	599	384	269	635
バルト諸国	17	16	18	18	32
そのうち:					
ラトビア	11	10	7	5	14
リトアニア	4	5	12	2	7
エストニア	2	1	-1	11	11

住民の外国への移住はこの数年はそれほど多くなく、焦眉の問題というわけではない。「遠い外国」へは 2005 年に 300 人が移住しており、そのうちロシア人は 35.7%であった。

これらの移住者が永住先として選んだのは、ドイツ（海外移住者の45.2%）、アメリカ合衆国（18.5%）、イスラエル（8.9%）であった。

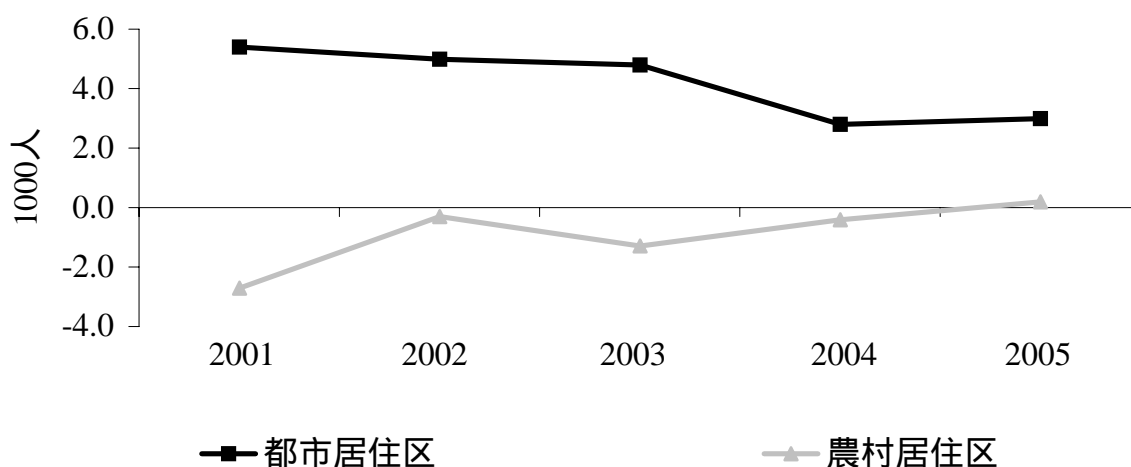
人口移動は州人口の民族構成に影響を及ぼす。移民の大部分は以前と同様ロシア人である。「近い外国」からヴォロネジ州にやって来る移民のうち、ロシア人の比率は72.4%であり、前年より3.7%少ない。

CIS及びバルト諸国からのヴォロネジ州への移住者の民族構成



工業化社会においては、とくに農村から都市へ、或いは農業地域から工業地域への人口移動が大規模に生じてきた。ヴォロネジ州での都市と農村との間の人口移動は、最近少し変化した。

ヴォロネジ州の都市および農村地域における人口社会増減



人口移動の活発さは労働資源の形成およびその構成に肯定的な影響を及ぼす。従属人口指数に対しても同様である。2004年の従属人口指数が685だったのに対し、2005年には666になった。

労働可能年齢にある人口は、最も高い流動性を持っている。2005年の流入者のうち、労働可能年齢にある者は全体の72.6%で、これは労働年齢人口の死亡による損失をある程度補填した。この年代の移動者のうち、男性が47.7%を占めた。

ヴォロネジ州移動者の性別・年齢別構造

(%)

	流入者		流出者		社会増加		参考：総人口における比率
	2004	2005	2004	2005	2004	2005	2005年1月1日
移動者のうちの各年齢階層が占めるパーセンテージ:							
年少人口	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
労働年齢人口	12.2	11.9	11.8	11.5	17.3	15.6	14.8
労働年齢人口	72.5	72.6	73.1	73.5	64.7	63.5	60.0
老年人口	15.3	15.5	15.1	15.0	18.0	20.9	25.2

ヴォロネジ州に流入してきた女性の数は男性より22.6%多く、人口の性別構成にネガティブな影響を与えた。ヴォロネジ州への流入者のうち、89%が前住地で家族と住んでいたが、彼らのうち家族全員あるいは家族の一部とともに移住したのは47.2%に過ぎなかった。

移動者の大部分を占めたのは、高度の技術を持つ専門家、職業訓練を受けた者、および技術に通じた人たちであった。

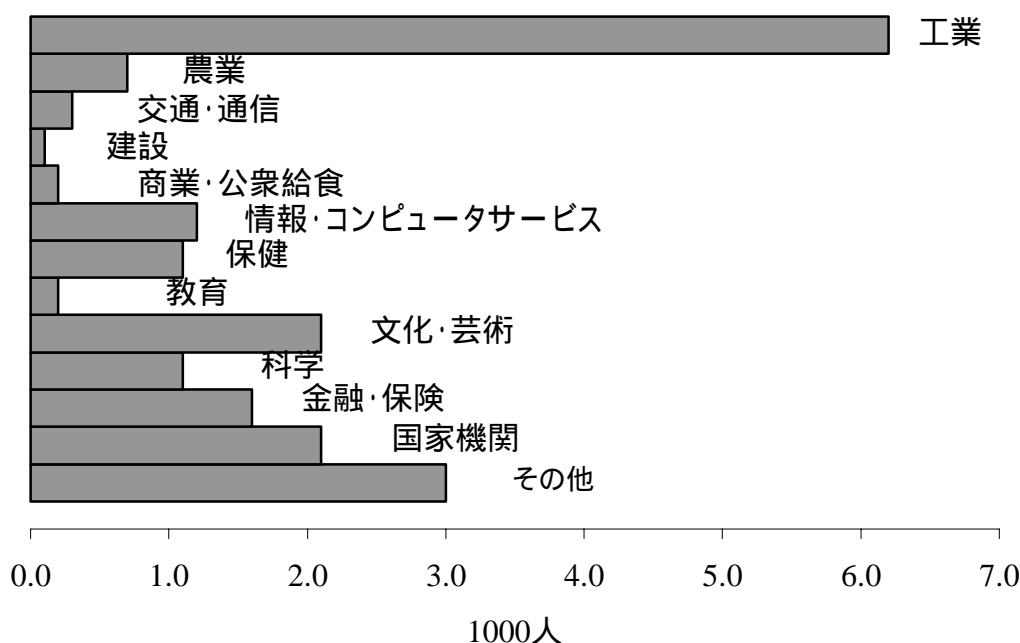
14歳以上の移動者の教育水準別構成

(%)

	流入者	流出者	社会増加
移動者のうち各教育水準保有者の比率:			
高等教育・高等教育中退	26.3	28.3	6.5
中等職業	27.1	25.5	42.6
中等総合	32.6	31.2	46.0

14歳以上の移動者（5万8100人）のうち、移動前に職に就いていたのは34.2%、教育を受けていた者は27%（うち大学生が22.9%）、非就労者は32.3%、身分を明らかにしなかった者が6.5%いた。非就労者の中では、高等教育修了者および高等教育を中退した者が22.7%、教育を受けていない者あるいは初等教育のみ受けた者が6.4%であった。

2005年における14歳以上の移動者の産業別構成



彼ら自身の理由によらない、あるいは彼らの意に反した（自然災害、環境破壊、軍事紛争、市民の権利や自由の侵害によるような）恒常的もしくは一時的な居住地の変更による移動は、「強いられた移動」Vynuzhdennaya migratsiya と称される。ロシア連邦移民局ヴォロネジ州支部の資料によると、2005年に強いられた移動者として認定されたのは他の地域から移ってきた5世帯（8人）であった。2006年初頭段階で強いられた移動者の地位を持っているのは（1992年7月1日の登録開始以降）1095世帯2561人であった。そのうち都市に居住しているのが1422人、農村部が1139人である。

強いられた移動者の中では女性が多い（52.9%）。強いられた移民の民族構成は、ロシア人が88.8%、ウクライナ人が8.1%、ベラルーシ人が0.7%であった。強いられた移動者の年齢構成は、労働可能年齢人口の多さによって特徴付けられる（59.3%）。高等教育修了者、高等教育中退者および中等職業教育修了者が16歳以上の強いられた移動者総数のうち50.3%を占めた。生活のための資金源としては、移住前には強いられた移動者の47.1%が様々

な所有形態の企業での職を有しており、30.6%は年金や各種手当を受給し、14.6%は被扶養者であった。

連邦統計局の予測によると、ヴォロネジ州における移動者は増加し、2025年までに1万9600人に達するだろうとされている。

連邦統計局ヴォロネジ州支部長

N.A.トカリチェヴァ

方法論的解説

ロシア連邦と諸外国との間の人口移動、およびロシア国内での人口移動に関するデータは、内務機関が作成する居住地での住民登録・あるいは居住地変更に伴う登録抹消に際して作成される移動者の統計記録に関わる一次資料から入手した。

人口総流動数

人口の流入と流出の総計。人口総流動数は人口移動の強度を特徴付ける。

純人口移動数

一定の期間に当該地域に流入した人口とそこから流出した人口の差の絶対規模。この値は正にも負にもなりうる。

総人口増加

人口の自然増加と人口移動による増加の合計。

従属人口指数

労働可能年齢人口（男性 16-59 歳、女性 16-54 歳）に対する幼年人口（0-15 歳）および年金受給年齢者（男性 60 歳以上、女性 55 歳以上）数の合計の比率。労働可能人口 1000 人当たりの数として計算され、非生産的人口による社会への負担を示す。

強いられた移動者

本人もしくは家族に対する弾圧、あるいは他の形態での迫害の結果、居住地を捨てたロシア市民。または、人種や民族・信仰・言語に関わってあるいは特定の社会的グループへの帰属や政治的信念を理由として、特定個人やグループに対する敵対的キャンペーンや社会秩序の集団的破壊が誘発されたことにより、現実的な危険にさらされた結果、故郷を捨てたロシア市民。